

【学校教育目標】お互いを大切にし、主体的に学び続ける児童の育成



みながっ子

わかる できる かわる たのしい学校

【校訓】
かしこく
やさしく
たくましく
やりぬく

持久走大会は自分をほめる日

12月7日(金)、天気にも恵まれ、持久走大会を予定通り開催しました。持久走はきついです。走りきったことが何よりも素晴らしいこと。走り終わった後、子供たちの晴れやかな顔をたくさん見ることができました。大会の日は数字も気になるけど、胸張ってゴール、自分をほめる日

大会にはゲストとして、「プロマインド・トライアスリート」福元 哲郎選手に来校いただきました。その後、日本全国で活躍され、世界の表彰台に立たれたご経験をもとにした講演をしていただきました。



出発前 気持ちは自分でつくるもの
とにかく声を出そう



☆以下は、Webから引用した福元選手の言葉です。

～走ることが苦手な子、得意な子、それぞれの立場で頑張ってみることを経験する。のぼりは苦しい…。体ができていないから当たり前、止まってもいいから今頑張れるところでゴールまで行こう！そしてグラウンドに入ったら、(アイコントロールして)、ラストスパートをかけて、カッコいい姿を見せて！とエールし見送ります。

私も今は走れないため、自転車でエールサポートさせて貰いました。自転車は機動力が良いので、後ろの子から先頭まで全てに声をかけることができ、かえってこのほうがいかな?と思ったり。

講演会は見ている通り、どんどん子供たちが吸収していく様子が分かります。まさに覚醒！最後は命に寄り添う人がいることを自覚してもらう。命を守ることを軸に今の活動を広めています。

大人の知らないところで死への願望を持っている子がいて、最近はその子から連絡がある。子供たちに触れ合い見守る大人を増やしていきたいと思っています。～
☆講演テーマ「夢と命」☆



ラストスパートがかけられるみんな、強いと思った。でも強いから弱い…
だれかのためにする気持ちが一番強い… あきらめなければ夢100%

広島ドラゴンフライズユースチームUI5ヘッドコーチ、UI8アシスタントコーチ 大浦 祐斗様、株式会社モルテン広島 四国支社長 百町 卓士 様、そして、本校の卒業生でもある、広島ドラゴンフライズ UI8 久能 秀惺 選手をお招きして、12月7日(木)、5・6年生対象のバスケットボール教室を行いました。、テーマは「1つのボールに託された力」 広島ドラゴンフライズユースチームは、1人の人間として、競技だけでなく社会にも貢献できるプロフェッショナルな人材育成を目的とされています。

久能選手からは、三永小の思い出、バスケットボールとの出会い、学業、練習…日々頑張っていることについての話を聞きました。モルテンの百町様からは、世界中のプレイヤーに使われているモルテンのボール開発の秘話などについて、大浦コーチからは、楽しい練習を交えながら、時間の大切さ(バスケットボールの試合は、0.1秒単位の勝負)、人と話すことの大切さ、(あいさつ、返事の徹底…とにかく声を出す、感謝…バスケットボールをさせてもらえる環境に感謝を伝えること)などを学びました。

全力じゃんけん
負けても勝っても大きな声で



今

インターネットやスマホの利便性は言うまでもありません。スマホなどの影響について書かれた「スマホ脳(アンデシュ・ハンセン著)」によると、
・スマホをポケットに入れておくだけで、学習効果が大きく下がる。
・10代は脳の制御機能(前頭葉)が機能的に未発達(目先の快楽を優先してしまう)、大人よりも、いろんなものに依存しやすい。→10代はSNSやスマホ依存になりやすい。
・10代は依存症になりやすいから酒やタバコが法規制されている。しかし、10代に依存になりやすいスマホは制限されていない。
・各社(SNS、ゲーム会社…)は、人間の脳構造を研究して、依存させるようなシステムを作り続けている。→依存症ビジネス、日本のゲーム課金は世界一、乱暴な言葉、昼夜逆転生活「朝4時に会おうね」…

昨年改訂された文部科学省発行「生徒指導提要」では
・スマートフォンやインターネットの発達によって教職員の目の行き届かない仮想空間で、不特定多数の人との交流について懸念される。とされます。
子供たちが被害者にも加害者にもなりうる可能性があるスマホの使用。大事なことは使い方、管理がされているかどうかであると考えます。
学校でもゲーム作成会社と連携した指導をしていますが、子供さんにもスマホを使わせるのであれば、これまでも各家庭でルールづくり等を行っていただいていると思いますが「ルールの再確認」「定期的な点検、見直し」をお願いします。「子供をネット依存症から守る」「被害者にも加害者にもさせない」という覚悟、親子の話し合いこそが重要です。

コミュニティスクール推進員より

12月17日(日)、まちづくり推進協議会、PTA執行部、地域学校推進委員の長岡さんなど、地域の有志の方々が門松をつくってくださいました。児童玄関、学校玄関に飾られています。お昼の放送で、門松は新しい年に年神様をまねくため、家の入口にたてることなど、門松の意味を全校児童に伝えました。新しい年に向け、気持ちも新たにになります。
みなさま本当にありがとうございました。
コミュニティスクール推進員 藤木 千日

